

主な展示資料

NO	展示資料	所有者	NO	展示資料	所有者
1	算額	三島神社	22	算法記	本館所蔵
2	算額	大日如来	23	算法記(萬葉二年)	〃
3	算木	松岡元久氏	24	算法記(文化九年)	〃
4	会田算術門安明	〃	25	数学習札置(明治年)	〃
5	安島直円全集	〃	26	数学教授録(明治十年)	〃
6	自在物談	〃	27	数学教授録(明治十年)	〃
7	算法天生法指南	〃	28	数学教授録(明治十年)	〃
8	和算術術伝書神文	吉田利次衛氏	29	数学諸問題日誌 (明治十三年)	〃
9	測心法免許誓詞	〃	30	塵劫記	〃
10	算法記	佐藤利次衛氏	31	算子塚(写真)	武田善八郎氏
11	算法啓蒙指南記(5冊)	堀口昌太氏	32	算木	稲村誠氏
12	和算研究集録(2冊)	〃	33	算盤	吉田利次衛氏
13	日本の数学	〃	34	自在先生石碑(複製)	本館所蔵
14	算法天生法(16冊)	山形市立図書館	35	旭山先生石碑(〃)	〃
15	算法古今通覽(5冊)	〃	36	碧山先生石碑(〃)	〃
16	算法測田圖(全)	〃	37	吉田先生石碑(〃)	〃
17	算法廓如(全)	〃	38	会田光榮翁石碑(〃)	〃
18	大萬賢塵劫記	栗田幸助氏	39	仲善先生石碑(〃)	〃
19	ぢんかうき	〃	40	会田安明像(写真)	〃
20	算學誓古大全	〃			
21	算術帖	〃			

山形の和算

—算書と算碑と算額—

1983.5.19～5.29

山形県立博物館 教育資料館

開催にあたって

和算の歴史上、山形の生んだ和算家会田安明に関る人々を中心にして、算書・算碑・算額等
を展示し、郷土の先人の残した数学上の業績を
理解します。

開催するにあたってご協力くださった方々や
各関係機関に厚くお礼申し上げます。

和算とは

江戸時代に発達した日本独自の数学で、築城・検地・土木工事・経済の発展などに伴って発達した計算術と、中国伝来の算書とソロバンの方法とが一体となり、新しい数学として作り出されたものです。

当時は、これを算学、算法といい、明治以後は西洋の数学（洋算）に対して和算と呼ばれました。

最上流と関流

日本の主流を占めていた関流に対して、会田安明は自ら最上流をおこしました。

関流と最上流との間には、20数年もの間論争が続き、これによって和算は大いに進歩したといわれています。

最上流は安明の没後、門人齋藤旭山によって山形にもたらされ、大正初期まで続きました。

算額の零紮

江戸時代、自分の考え出した数学の問題を手軽な研究発表の手段として、絵馬にし美しく彩色した図形を

描き、それに関する問題や解答をそえて、絵馬に仕立てて神社や寺院の人目につけやすい場所に掲げました。

山形県に現存するもので最も古い算額は東根市野川の日月神社の「愚問算術」です。これは文化3年（1806）、下金谷村住齋藤歳陸門人名和保矯が奉納したものです。

山形で奉納された算額は、わかっているもので49枚あり、そのうち22枚が残っています。

和算から洋算へ

和算の世界では関孝和以後にも延師賢弘・安島直円和田肇などのすぐれた学者が相次いであらわれ、ついにはヨーロッパの微積分に近い方法まで到達しました。

しかし、和算の考え方は日本独自の術・芸の域から脱しきれず、体系化されるまでに到りませんでした。

明治5年（1872）学制が公布されると、洋算を採用し徐々に和算は衰えていきました。